

関東大学女子駅伝 部便り

目次

1. 監督より
2. 結果
 - 2.1 総合結果
 - 2.2 個人結果
3. 女子主将の言葉
4. 出場選手の言葉
5. 主務より

1. 監督より

監督・藤田靖浩

今年度の関東大学女子駅伝は、鉄門陸上部にも協力して頂いたり、長距離以外の選手も借りだしたりということもありましたが、5年ぶりに出場することが出来ました。結果は24位でしたが男子に比べ対校戦の種目も少ない女子にとっては非常に良い経験となりました。

幸い出場の手は来年度も残りますので、次回は出場

の楽しみだけではなく、勝負の楽しみを味わえるように、新人の勧誘を含めて頑張っていきたいと思います。

2. 結果

2.1 総合結果

・シード校である大東文化大学、日本体育大学、東洋大学を除く、上位6校が第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に出場。

1	東洋大学	1時間 39分 40秒
2	東京農業大学	1時間 39分 51秒
3	日本体育大学	1時間 40分 01秒
4	大東文化大学	1時間 40分 17秒
5	城西大学	1時間 41分 16秒
6	順天堂大学	1時間 41分 24秒
7	白鷗大学	1時間 41分 36秒
8	玉川大学	1時間 42分 20秒
9	中央大学	1時間 42分 42秒

...

24	東京大学	2時間 03分 04秒
----	------	-------------

2.2 個人結果

1区(4.6km)	高石涼香(3)	16'54	区間 20位
2区(4.2km)	荒木玲(3)	17'49	区間 24位
3区(3.3km)	内山咲良(2)	15'19	区間 24位
4区(5.8km)	遠藤理子(3)	22'06	区間 22位
5区(4.6km)	堀越美菜(3)	20'52	区間 24位
6区(7.8km)	藤原ゆか(3)	30'04	区間 21位

3. 女子主将の言葉

女子主将 高石涼香

OB・OGの皆様にはいつも温かいご支援・ご声援をいただき、誠に感謝しております。9月24日、千葉ニュータウンで行われました関東大学女子駅伝に出場するにあたり、様々な方にご指南・ご声援のお言葉をいただきました。また当日も東京大学の幟のもとに応援に来てくださった方もいらっしゃり、選手にとっては大きな励みと

なりました。この場をお借りし、チーム一同感謝の言葉を述べさせていただきます。

6区間30.6kmで行われますこの駅伝は、関東の大学駅伝ではまぎれもなく最も高いレベルの駅伝であり、毎年多くの駅伝強豪校が全日本大学女子駅伝対校選手権大会の切符を懸けてしのぎを削ります。東京大学の女子チームは怪我や人数の関係上最後に出場した2012年以来、チームを組めずにいる状況でした。今年駅伝に出場するかどうかについては様々な議論がありましたが、今年は比較的中長距離を専門とする選手が揃っていること、そして来年以降高い標準記録が設けられる可能性が高く、東大が今後出場するのは非常に厳しい可能性があることを考えまして、鉄門の遠藤(3)・跳躍の内山(2)の力を借りて出場を決断しました。

今回駅伝に出場するに当たり、チームとしての目標は襷をつなぐことでした。先頭から15分以上離されるとその区間は繰り上げとなってしまいます。先頭で展開するチームは非常にハイレベルであること、そして東大のチームの中には専門外の選手や脚の調子が悪く全力では走れない選手がいるという状況下で、予想されたタイムでは4区と5区の襷はつなげても、最終区の6区まで襷をつなぐためには1人が1'近くタイムを縮めないとならないという、厳しい状況にありました。

1区を走る高石(3)は長い距離に対応できず24チーム中20位で襷を渡すことになりましたが、怪我明けで調子を徐々に戻してきている荒木(3)が2区で目標タイムを1'近く縮める走りを見せてくれました。2区以降東大のチームは24位まで順位を落としてしまいましたが、専門外であるにも関わらず内山が3.3kmの短い区間をしっかりと繋ぎ、普段は800mを専門種目としている遠藤(3)も5.8kmという距離を走りきり目標タイムを1'近く縮める力走でした。先頭との差が14'となろうとしている時に4区から5区への襷が渡り、その後堀越(3)が前を追うも6区まで襷は渡らず、首都大とともに東大は繰り上げスタートとなってしまいました。最終区では7.8kmの最終区間を、長距離種目を得意とする藤原(3)が好タイムで走り切りま

今回こうしたレベルの高い駅伝を走れたことは、メンバー全員にとって、とりわけ長距離を今後専門にしてい

く藤原・堀越にとっては大きな収穫となったはずで

す。このような舞台を走らせて頂けたこと、この場をお借りして深く感謝いたします。

4. 出場選手の言葉

1区(4.6km) 高石涼香(3) 16'54 区間 20位

1区4.6kmを走らせていただきました。関東でこれほどレベルの高い駅伝大会にチームとして臨むのは自身にとっては初めてであり、東大の襷をかけて東大の幟を持った方々に声援を送られて走ることができたことは、今後においても印象深い経験になると思っております。長距離を専門にしてい

く選手にとってはレベルの高い選手と同じ舞台で走ることができるということで収穫は大き

かったでしょうし、チームとしてこの駅伝に出た意義はあったはずで

す。

1区を走った個人としましては、走りの内容については納得の行くものではありませんでした。最初から先頭集団から離れてはいけないと思い、かなりのハイペースで1kmを通過し、その後2kmまで粘るものの、3km以降はどんどんペースを落としてしまいました。結果24チーム中20位で襷を渡すことになり、目標タイムにも及ばず、東大のチーム目標の足を引っ張る形となってしまいました。

この駅伝がトラックシーズン中に位置しており、普段は中距離を専門としている自分にとってこの駅伝をどう位置づけるかは難しいものでした。しかし、この4.6kmをしっかりと走れるようになることは今後のトラックで記録を狙うにあたっていい指標になったでしょうし、実際に他の大学の中距離選手もこの駅伝に出場し好成績を残している人もいます。今回の結果はインカレ前後で長い距離を走る練習が足りていなかったことの露呈だと捉え、今後は冬のいろは坂女子駅伝なども視野に入れつつ、長距離の練習も取り入れていこうと思います。今回の駅伝で関東の駅伝強豪校の層の厚さ・駅伝への取り組みを間近にし、自分にとっても大きな糧となりました。

応援・サポートのほど誠にありがとうございました。

2区(4.2km) 荒木玲(3) 17'49 区間 24位

専門は800mですが、5年ぶりの出場が決まり今回走らせて頂きました。このように大きな駅伝は私自身走るのが初めてだったのでとても緊張しましたが、たくさんの応援もあり、襷をつなぐワクワク感と共に楽しく走ることができました。七大戦後から小さな怪我を繰り返し満足のいく練習量はつめていなかったのですが、その中でも自分の想定していたタイムより1分ほど速く走ることができたのはよかったと思います。しかし1区から順位を落とし最下位で次走者に襷を渡すことになってしまったのは非常に残念ですし、自分の実力不足を痛感しました。とくに一つ前の選手とは途中までかなり差がつまっていたため、最後かわせなかったことがとても悔しいです。

今シーズンはなかなか専門の800mでも思うような成績が残せず苦しいシーズンが続いていますが、今回の駅伝を通して勝負に負けた悔しさ、そして何よりも走ることの楽しさを思い出すことができました。この気持ちを大切に京大戦、そして残りのシーズンもがんばりたいと思います。出場まで様々な支援をしてくださった方々、朝早くから遠方まで足を運んでくださった方々、応援してくださった皆様、誠にありがとうございました。

3区(3.3km) 内山咲良(2) 15'19 区間 24位

今回は駅伝に出られる最後のチャンスかもしれないということで、専門外ながら参加させていただきました。実は駅伝は中学、高校と参加したことがありましたが、大学でも参加する機会が巡ってくるとは思っていませんでした。

率直に申し上げますと、やはり長かったです。今回の駅伝では一番短い区間である3.3kmも、私にとってはとても長く感じられました。そして、沿道の応援がとても良く聞こえました。いつもは100mだったり、跳躍だったりするので競技中にダイレクトに応援が聞こえることがあまりなく、その意味で今回は応援の大切さを身にしみて感じる事ができました。わざわざ応援に来てくださったり、朝早くからサポートしてくださったりした方々には本当に感謝してもしきれません。ありがとうございました。

4区(5.8km) 遠藤理子(3) 22'06 区間 22位

鉄門陸上部3年遠藤理子です。運動会の部員が足りないということで声をかけて頂き、関東女子駅伝に出場させてもらう運びとなりました。

800m専門でトラックシーズン最中ということもありあまり長い距離は走らずに試合に臨んだので、しっかり走りきれぬペースで行くつもりでした。しかし、序盤かなり突っ込みすぎてしまい、後半苦しくなりましたがなんとか粘りきれました。繋げるかどうかギリギリだった5区までは襷を繋ぐことが出来てほっとしています。

今回、関東女子駅伝を走るという貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。普段の試合では会わないようなハイレベルな選手たちと同じ舞台に立てて良い刺激になりました。また、面識のない人も多い運動会の部員の方々に応援していただけ嬉しかったです。ありがとうございました。

5区(4.6km) 堀越美菜(3) 20'52 区間 24位

5区4.6kmを走らせていただきました。まず、今回この大きな舞台で走る機会を与えていただいたことにも感謝しています。人数がそろわず、エントリー締め切り間際まで出場するか否かの議論を女子部員の間で行いました。

駅伝前のトラックレースでもPBより大幅に遅く、調子が上がらない状態で臨みました。それでも駅伝の高揚感を利用して速めのペースで押し切れるのではないかと思います。目標を下方修正することはしませんでした。

もともと5区まで襷がつながるかどうかも危ないという計算で、繰り上げ襷を持って中継地点で待っていましたが、残り1分というところで遠藤が東大の襷をかけて走ってきてくれました。そのままテンポよく走り出したつもりでしたが、1km地点で手元の時計を見たとき、体感と実際のスピードが合わずに非常に焦りました。2km地点ではすでに設定を下回り、中間地点ではほとんど体力を使い切っていました。そこから立て直すことができず、後半はほとんどジョグのようなペースまで落ちてしまいました。

この駅伝を走ることをとても楽しみにしていたのに、コンディションを整えきれず、十分に実力を発揮しきれ

なかったことは本当に悔しいです。一緒に走った仲間や応援してくださった方々に対して申し訳ないです。想定していたより多くの方々に応援に来ていただけてとても嬉しかったです。レース中、沿道の幟や東大ジャージが見えて力をもらえました。また、出場するにあたって様々な事務手続きを行いました。その際さまざまな形で部員やOB/OGの方々のお力添えをいただきました。皆様には大変感謝しています。

今回感じた悔しさを忘れず、今後の練習の糧としたいと思います。応援・サポートなど本当にありがとうございました。

6区(7.8km) 藤原ゆか(3) 30'04 区間 21位

6区を走らせていただきました、中距離3年の藤原です。最長区間7.8キロを走ることが決まってから、駅伝中1人で押すことを想定して練習においても8000など長いペース走を1人でこなしてきました。そのおかげもあり、当日は終始迷いなく走ることができました。

自分の区間で襷が途絶えてしまい、東大の襷でゴールをすることができませんでした。それは大変悔しく、厳しい現実です。自分が普段戦う場の遥か上をいく選手との差。どうすればそれを埋めて、同じ土俵で戦えるようになるのでしょうか。今回、誰かに引っ張ってもらってこなす練習ではなく、自分で確実にペースを刻み、ラスト粘る・あげるというアプローチに挑戦し、その成果を実感しました。まだ伸び代があるとも感じました。まずはこのアプローチで伸ばせるところまで伸びてみようと考えています。

レース中、辛くなる時には必ず東大の応援が聞こえて、本当に背中を押しました。こんなにも大きな舞台上で走らせてもらえる機会をいただいた皆様、応援・サポートしてくださった全ての皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

5. 主務より

連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：原島敏知

〒167-0054 東京都杉並区松庵 2-9-16

TEL : 090-8848-7525

Mail : shumu@utf.org

学生主務補：荒木玲

Mail : utf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

学生主務 原島敏知

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の大島までお送り下さい。

部便り主任 大島知之

(Mail: utfbdyri2017@gmail.com)